

VMATとは

災害動物医療支援チームの略で、
人と動物に関わる様々な事態に対し
減災、防災、災害時の対応・復旧、
復興協力支援する組織です。



大阪 VMAT は動物を救うことが人や環境を守るという理念のもと動物救護等対策委員会が中心となり、2017 年 1 月に設立しました。現在、獣医師、動物看護師の 40 名で活動しています。

近年、大阪でも 2018 年の大阪北部地震、台風 21 号と比較的大きな災害が発生しました。また南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくありません。

災害発生に際しペットとの同行避難が原則となっていますが、まず自分の身の安全を確保する事、つぎに家族、家、近隣が優先されます。その為には、日頃からの防災、減災の知識、準備、心構えをしっかりとおきましょう。



同行避難したあと、避難所内に入れるかどうかは各避難所によって異なり
避難所生活では平時の適正飼育が大きなカギとなります。

- ①飼育頭数の制限：一人で、一度にたくさんの動物を連れて逃げることは、避難行動上あるいは避難所の受け入れも困難となります。多頭飼育の場合には在宅避難が必要となる場合もあります。また逸走中に繁殖しないため去勢・避妊手術についても考えましょう。
- ②健康管理：持病がある場合にはペットフードやお薬など余裕をもって常備しておきましょう。狂犬病予防注射は法律で定められているのでかならず受けておきましょう。また各種ワクチン、フィラリア予防、ノミ・マダニ予防も必要です。
- ③各種予防：犬の登録、鑑札の装着、迷子札、マイクロチップなど逸走した場合や離れ離れになった場合にも連絡先がわかるようにしておきましょう。飼い主さんと一緒に撮った写真があれば良いです。
- ④個体識別：避難所では見ず知らずの人や、他の動物と狭い空間で生活する可能性があります。いろんな人や動物に慣れさせる訓練やケージの中でも大人しくできる訓練をしておきましょう。
- ⑤社会化
- トレーニング：
- ⑥飼い主のマナー：普段から、散歩時の糞尿始末やリードをつけての散歩など社会的なマナーを心がけましょう。
- ⑦飼い主の共助：自分が留守の場合、自宅にいる動物の安否確認や避難所での共同生活には、飼い主同士の協力が重要となります。普段から、いざというときに助け合える仲間を作つておきましょう。避難所では、安易に見知らぬ人や団体に動物を預けるのは避けましょう。
- ⑧預け先：避難生活が長引いたり、生活を立て直すため、しばらくの間、動物を飼育できない場合に備えて、遠くの親戚や知り合いなど、預け先を探しておきましょう。

非常時に備えての準備

～ チェックシート～



- 首輪、リード、ハーネス（係留可能なもの）
- 鑑札、狂犬病予防注射済み票、迷子札
- キャリー（劣化していないか定期的に強度をチェック）
- 飲み水
- ペットフード（処方食の場合は多めに!!おやつ、トッピングなど）
- 食器と水入れのボール（普段から使って慣らしておく）
- 常備薬と緊急用品（薬の種類、量、回数などを記載したもの）
- 排泄用品（ペットシーツ・ネコ砂・消臭剤）
- 健康手帳と診察券（ワクチン歴、血液検査結果など最新データー）
- その他 タオル、新聞紙、ウエットティッシュ、ビニール袋、ガムテープ、カッターナイフ、油性マジック

※過去の災害では、特殊なものを除き、ドックフードや飲料水、ペットシーツや猫砂などの支援物資は、比較的早い段階で避難所に届きました。非常袋にたくさんのものを詰め込むと、いざ避難となった場合に、逃げ遅れる可能性もあります。準備したあと、自分が持つて逃げる重さに再調整しましょう。



動物を救うことが人命や環境を守る



 公益社団法人 大阪府獣医師会

